



令和6年度教育厚生委員会行政視察報告書

三田 忠男

令和6年7月10日行政視察先：八潮市八條北小学校

行政視察目的：伊豆市は、英語教育に力を入れて ALT 配置量も先進地であるが、社会に羽ばたきグローバルな視点で考える力のある児童生徒の養成には、新中学校の建設を踏まえた学習内容の充実が必要不可欠であると、「英語指導力改善事業における外国語教育について」の先進地である、この市に視察に伺った。

行政視察後の所感：まず驚いたのは、至るところに英語表記の案内や場所の説明が書かれていたことです。また、市を挙げて、小中一貫教育に取り組みながら、令和2年から埼玉県英語指導方法改善事業研究委嘱指定がなされ、翌年令和3年文科省委託：小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業に取り組んでいる。

全教師が同じレベルで教授出来るよう「八潮スタンダード」作成し、それに基づく授業を改善を行い、親和的な学級集団で確かな学力を身に付けられる学校を目指してた。

ENGLISHDAY の授業参観の子供たちは今日の英語に英語で応え、楽しくゲーム感覚で受け答えしていた。ICT や紙媒体を適切に使い、楽しんでいるように思えた。先生は目標にある「子供たちが褒められる学校」の具現化で、褒めまくっていた。子供を笑顔で迎え、笑顔で返す実践を垣間見た。

今まで、伊豆市内では見たこともない事業風景であった。是非とも、教育委員会で施設に訪れてほしい学校でした。

令和6年7月10日2施設目の行政視察先：草加市リサイクルセンター

行政視察の目的：伊豆市リサイクルセンター建設中であるが、今後の運営に関し、循環型社会、ごみ減量、粗大ごみ活用等の取り組みの知見を得るため3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進と環境学習を目的として施設の「不用品リユース事業の現状と今後の課題」を学ぶため、環境負荷を考えもったいないを実践するリサイクルセンターを視察しました。

行政視察後の所感：「できる範囲でやってます。時にお金をかけていません。各々の自治体のやり方があると思います。」が印象的でした。伊豆市は伊豆市市民意向と、行財政の現状の身の丈に合う規模でやればよいと思います。取り組みの哲学が大事であり、環境教育や

学習を通じて、実践へとつなげることが大切だと思います。

草加市の取り組み状況で驚いたのは、資源となる雑紙を燃えるゴミにださないでくださいと、「雑紙保管袋」を配布していたことでした。お菓子等の箱、ラップ等の芯、メモ用紙、封筒、洋服のタグ等々を袋に入れて、資源として活用する姿勢です。

リユース品の販売は、行政が行うまでもなく、市内の障害者就労継続支援施設の共同運営に任せても良いのではないかと思います。そうすることのより、障害者の社会体験拡大、社会経済活動への参加、共生社会への理解促進等が育まれると思います。

令和6年7月11日 2日目の行政視察先：高崎市タワー美術館

行政視察の目的：伊豆市美術館構想が定まらない中、複合施設構想が出てきたことにより、伊豆市議会としても、知見を高め、市民の負託に応えるため、複合施設内である高崎市タワー美術館を視察し、複合施設に併設された美術館の現状と課題を学びました。

市内には他の高崎市美術館・旧井上房一郎邸、高崎市山田かまち美術館もあるが、高崎市タワー美術館は、近・現代の日本画を中心とした収蔵作品や企画展を行っている。

視察時は、日本美術×グラフィックデザイン～雨と鯉と富士山と～が行われていた。

館長様から、丁寧に事前提出質問に答えていただいた。

その中で、印象に残った言葉は、①日本画の大家在修善寺の地で、若き時代を過ごし書き上げてきた作品は、この地こそ「ストーリー」があり、他ではまねができないことは強みである。②まちづくりの一環として、位置づけ回遊性を高め、賑わいを創る。③庁舎組織として、市長公室が所管し、今は総務部がアートプロジェクトとして所管している。教育委員会部局でない。④設備特にトイレは衛生的でなくてはならない。

伊豆市美術館構想に向けての行政視察後の所感

1. 初めに

委員会で、美術館構想に向けてを議論するには、あまりにも情報不足と、知識不足であり、複合施設内の美術館から知見を得て、一定の共通の認識のもとで取り組む必要性を感じ、今回の行政視察を行いました。

2. 行政視察後の所感

- 1) 今まで、財政面を中心に伊豆市の規模に見合う規模間を模索していましたが、伊豆市民合意の現状、伊豆市の行財政、伊豆市の特性等から、市長自らが伊豆市に

ふさわしい「美術館をつくるんだ」という行政施策の意義を確認し、ニーズに基づくテーマ、意義を見出さないと、財政面や運営面から困難を生ずると思われました。

- 2) 今の伊豆市の現状や将来の伊豆市の未来像の予測から、真に必要な美術館とするためにも、市民を巻き込んだ、意見交換を公開で行う必要があると考えます。
- 3) 美術館は、伊豆市合併時の合意事項だから推進するのか、観光面から必要とするのか、社会教育、学校教育、市民生活の潤い、文化薫るまちづくりのために必要なのか、市民合意の元、テーマ、哲学を発揮する作業が必要と考えます。
- 4) その結果により、規模や、構想、財政、地理的条件や哲学から導き出される建設地等がおのずと導かれると考えます。
- 5) 単体の美術館構想から複合施設への路線転換も、多くの市民は知らされていない事項と思われ、もっと市民への情報提供、意見募集を行わないと、市民に愛され、活用されない美術館になってしまう危惧を感じます。
- 6) 観光地伊豆の歴史を踏まえて伊豆市の全世代から、『なぜ多くの文豪、文化人が伊豆市を訪れたのか、なぜ先達が、若きものを受け入れ支援を惜しまなかったか、古来伊豆の地理や文化、先達の生きざま等が学べて、伊豆の特徴を生かした、ストーリーが学べて、若きものが成長していく過程が学べ、その経緯に、伊豆市民がここに生まれ、育まれ、住んでいることに誇りが持てるような』、伊豆市民以外の観光客や見学者が『そうか、だから伊豆に来たんだ、伊豆市が育てたのか、伊豆市はいいところだ。また来てみるか。』と感じれる美術館になればと思います。
- 7) 修善寺温泉場の雰囲気を感じれる地に建設と思いますが、この地の住民の意見を最大限生かし土地利用を検討していただきたいと思います。
- 8) 市民の現状は、あまり関心もなく伊豆市に美術館なんて必要かと思われている方が多数と感じます。そのような意見に対し、「そうか、なるほどな」と思わせる哲学や建設の意義、規模、財政等説明責任を果たすことが大切だと思います。
- 9) 財政面に関しては、官民共同でとりくみ、税負担のみならず、ふるさと納税、入湯税一部、寄附、ファンド、募金等市民負担のマイナスイメージにならないよう取り組みが必要と考えます。
- 10) 運営面で、財政破綻を招かないためには、その分野秀でた優秀な学芸員の確保が必須となると思います。企画力、展示力、説明力等兼ね備えた人材の確保は必要不可欠な条件と考えます。
- 11) 今までの、審議会等での到達点を公開し、市民の自由なシンポジウム等を行い霧

困気の醸成を図り、市民と共に取り組むことが必要と感じます。伊豆市の貴重な財産にするためには、市民の理解が欠かせません。

貴重なお時間を頂きまして、行政視察を行うことが出来ました。議会事務局を始め、訪問先の行政関係者等には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。